令和元年度（2019年度）

箕面市体力・運動能力・運動習慣等調査

結果報告

令和元年（2019年）11月

箕面市教育委員会

**体力調査**

 **▼子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。**

**▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。**

|  |
| --- |
| 1. 箕面体力・運動能力調査・・・・・・「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施

◎実施時期　４月下旬～６月末◎調査種目【１～３年生（小１～小３）】 立ち幅とび･50m走･ソフトボール投げ【４年生（小４）】 立ち幅とび･50m走･ソフトボール投げ･反復横とび･20mシャトルラン【５～９年生（小５～中３）】 立ち幅とび･50m走･ソフトボール投げ（中学生はハンドボール投げ）･反復横とび･20mシャトルラン･握力･上体おこし･長座体前屈（２）運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査・・・・・・全学年で実施 |

* 体力･運動能力、運動習慣等調査の結果

【結果】

１年生から９年生まで男女別で調査した種目の総数は、102 種目です。その内、全国平均を上回った種目数は９種目で、全体の8.8％でした。全学年、全国平均を上回るという目標は、達成できませんでした。

【取組の経過】

本市の体力が全国を下回ることが明らかになったときから、体力向上にむけた計画を策定してきました。その一環として、体力向上用具の配布や体力向上ボランティアなどの取組も行ってきました。また、昨年度から体力向上モデル校を指定し、体力向上の取り組みを進めているところです。

【分析】

(1)全体的に全国平均に比べて低い結果が見られました。中でも子どもが初めて実施した種目は、より低い傾向があり、様々な動きの経験が不足していることが考えられます。また、運動能力の向上には日常的に体を動かす習慣は大切ですが、体力調査と同時に実施した運動習慣調査で、本市の子どもたちは運動する機会が全国に比べて少ないことも明らかになっています。日常の運動時間が少ないことも体力向上につながらない要因の一つと考えられます。

(2) 学校では、体力向上に向けた行事や子どもたちの主体的なイベント等の活動も行われています。日々の体育の授業で、様々な運動を経験させたり運動量を確保したりするとともに、遊びの中でも体を動かしたいと思えるような運動への意欲を高め、行事やイベントとの関連を図ることで体力向上につなげていきます。また、体力向上モデル校の実践を各学校に広げていきます。

**箕面市**

　　　令和元年度 箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査





※全国平均を基準にした偏差値

※数字および記号の表記

　（５０以上・・・白抜き　４８以上５０未満・・・△　４８未満・・・▲）

【概要】

◆　小学校では、３、５年生男子女子の「立ち幅跳び」、５，６年生男子女子の「長座体前屈」で全国平均値を上回っています。

◆　中学校では、１年生女子、２年生女子、３年生女子の「上体起こし」で全国平均値を上回っています。

◆　小・中学校とも、「反復横跳び」「ボール投げ」が全国平均値より大きく下回っています。また、小学校では「２０ｍシャトルラン」、中学校では「立ち幅跳び」が課題となっています。

**1年（小1）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

実施していません

全国

平均

**偏差値**

実施していません

　１年生は、初めて体力運動能力調査に取り組みました。男子女子ともに、全３種目において、全国平均値を下回っています。

また、男子女子「ボール投げ」、女子「５０ｍ走」については、全国平均値との差があり、課題であることがわかります。

その種目に慣れていない面があると思われますが、就学前から、幼稚園・保育所、家庭等とも連携し体力を高める運動に取り組む必要があります。

**2年（小2）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

実施していません

全国

平均

**偏差値**

実施していません

２年生男子女子ともに全３種目において、全国平均値を下回り、全種目での体力向上が今後の課題です。

「ボール投げ」においては、男子女子ともに昨年度を上回っています。「立ち幅跳び」においては、男子は昨年度を上回っています。

**3年（小3）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

実施していません

全国

平均

**偏差値**

実施していません

「立ち幅跳び」において、男子女子ともに改善傾向が見られ、今年度は全国平均値を上回りました。

しかし、「ボール投げ」においては、男子女子ともに全国平均値を下回っています。また、低下傾向が継続して見られ、大きな課題があります。

**4年（小4）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

実施していません

全国

平均

**偏差値**

実施していません

４年生では、どの種目においても、男子女子ともに全国平均値を下回っていますが、女子「５０ｍ走」においては昨年度を上回り、全国平均値に近づきつつあります。

男子女子とも「立ち幅跳び」と「ボール投げ」は、昨年度と比べ低下しており、課題です。

「反復横跳び」「２０ｍシャトルラン」は、４年生から実施する種目です。その種目に慣れていない面があると思われますが、全国平均値を下回り、課題です。

**5年（小5）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

全国

平均

**偏差値**

初めて実施した「長座体前屈」では女子で全国平均値を上回りましたが、「上体起こし」は、全国平均値と差が見られました。

昨年度から実施している「反復横跳び」はほぼ変化なく、「20mシャトルラン」は低下しており、課題です。

「立ち幅跳び」は男子女子とも昨年度よりも向上し、全国平均値を上回りました。

「ボール投げ」は、全国平均値と開きがあり、課題です。

**※**「握力」「上体起こし」「長座体前屈」は５年生から実施する種目です。

**6年（小6）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

全国

平均

**偏差値**

男子女子とも「長座体前屈」は、昨年度より向上し、全国平均値を上回りました。

「上体起こし」「立ち幅跳び」については、全国平均値を下回ってはいますが、昨年度より向上しています。

しかし、男子女子とも、「長座体前屈」以外の７種目において全国平均値を下回っています。

特に、男子女子とも「反復横跳び」「20mシャトルラン」「ボール投げ」においては、全国平均値と開きがあり、課題が継続しています。

**7年（中1）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

全国

平均

**偏差値**

女子の「上体起こし」は全国平均値を上回りました。中学生になり、男子の「上体起こし」「２０ｍシャトルラン」と女子の「２０ｍシャトルラン」に伸びが見られますが、その他の種目においては、６年生のときと比較すると、下回っている種目が多く見られます。

特に、「ボール投げ」は、男子女子ともに依然全国平均値との差が見られ、課題といえます。また、男子女子とも「長座体前屈」「立ち幅跳び」など低下傾向の種目もあります。

**8年（中2）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

全国

平均

**偏差値**

女子の「上体起こし」は、全国平均値を上回りました。また、男子の「上体起こし」と女子の「反復横跳び」「２０ｍシャトルラン」に着実な伸びが見られます。

しかし、７年生と比較すると、男子は６種目、女子は５種目で下回りました。特に男子では「握力」「反復横跳び」「立ち幅跳び」、女子では「立ち幅跳び」「ボール投げ」で全国平均値を下回り、課題となっています。

**9年（中3）**

**各種目結果の学年別経年比較**

全国

平均

**偏差値**

全国

平均

**偏差値**

女子の「上体起こし」で、全国平均値を上回りましたが、男子女子とも他の種目においては、全国平均値を下回りました。

昨年度と比較すると、男子は４種目、女子は３種目で伸びが見られました。しかし、女子は「ボール投げ」が低下傾向にあり、男子は７年生、８年生の時に課題であった「握力」「立ち幅跳び」に依然として課題があります。

**令和元年度　運動習慣等調査の結果から**



　小学生では、箕面市全体で「１日に運動やスポーツをする時間が３０分より少ない」子どもたちの割合は女子では全学年、男子では１～３年生で全国より少なく、低学年で特に低い傾向となっています。

また、「１時間以上運動やスポーツをする時間がある」子どもたちの割合は、男子の１～４年生、女子の全学年では全国と比べて多くなっており、日頃から始業前や休み時間や放課後に体を動かし、運動やスポーツに親しんでいることがわかります。しかし、高学年になるにつれ、運動やスポーツに親しむ時間が減少していく傾向があり、５・６年生男子では、全国に比べ低くなっています。





　中学男子では、１日に運動やスポーツをする時間が「１時間未満」の子どもたちの割合が、全国と比べて高く、少しずつ運動に親しむ時間が減っています。また、「２時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合では、全国平均値を下回っています。

　中学女子では、１日に運動やスポーツをする時間が「１時間未満」の子どもたちの割合は、全国と比べてほぼ同じですが、「２時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合では、男子と同様に全国平均値を下回っています。

中学生全体として、運動やスポーツを実施する時間が少ない傾向にあります。

令和元年度箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査まとめ

今年度の「体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均値との比較では、箕面市の小中学生の体力は、各学年で依然として下回っている種目がほとんどです。しかし、学年や男女別によっては、昨年度より上昇している種目も見られます。また、「運動習慣や健康意識についての調査」から、以下のこともわかりました。

・「1日の運動時間が1時間以上」が男子は小学校４年生まで、女子は小学校６年生までは

全国と比較しても多い！しかし、高学年から中学生にかけて「1日の運動時間」が、全

国に比べて少なくなる！

・「運動やスポーツは大切」という意識をもっている小中学生は、体力合計点が高い！

･「体育の授業で運動のコツやポイントをつかむことができる」小中学生は体力合計点

が高い！

**学校では主体的に運動できる取組を実施！**

各学校では、体力調査の結果から見える課題をふまえ、体育科の授業改善を進め、体力向上に取り組んでいます。各学年の経年比較からもその結果が表れている種目もあります。今後も今回の体力調査の結果を受けて、いろいろな運動体験や機会も増やしつつ、さらに一人ひとりの子どもたちの体力向上をめざしていきます。また、運動習慣等調査と体力合計点の関係で、運動のコツやポイントをつかむことができる子どもたちは体力合計点が高いことから、子どもたち自身が主体的に学ぶ姿勢を大切に、自分自身で考え、いろいろ試しながら「**わかった！**」「**できた！**」「**たのしい！**」と感じられる体育の授業を実施していきます。しかし、学校で運動やスポーツに取り組める時間には限りがありますので、帰宅後や休みの日などに、家庭や地域の中でも運動する機会の確保が大切となってきます。

**子どもといっしょに！　大人もすすんで**

**運動やスポーツを楽しみましょう！**

運動やスポーツに興味関心があり、「好き！楽しい！」と思える児童生徒は、

積極的に体育の授業にも取り組むことができます。児童生徒が運動やスポーツに興味関心を持つには、ご家族で一緒に運動したり、スポーツを観戦したりすることが大切です。ぜひ、各地域でおこなわれている運動・スポーツの行事に子どもたちと一緒に積極的に参加していただければと思います。また、来年はいよいよオリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。この機会に子どもたちと一緒に運動・スポーツの魅力と迫力を感じてみてください。

さらに、就学前からさまざまな「運動・遊び」に親しませることが、それ以降の体力向上につながることがわかっています。各中学校区内では、幼稚園や保育所とも連携をおこない、体力向上の取組を進めていきます。